

特集 ■ 認知症リハビリテーションの EBM

近年、認知症治療に関する研究は進歩し、「認知症疾患治療ガイドライン 2010」が公表されている。認知症にはアルツハイマー病、血管性認知症、レビー小体型認知症、前頭側頭型認知症などがあり、正しい理解と治療・ケアが重要である。本特集では主にリハビリテーションの現場で遭遇する疾患や問題点を中心に、現時点の認知症治療の最先端を述べていただいた。

診断と薬物治療の進歩 (武田章敬氏, 421 頁)

早期発見は、早期の治療を可能にし、また治療できない場合でも本人や家族が今後起こり得る状況に対して準備や対応を行う時間を確保できるため重要である。診断のためには、多方面からの診察・評価・検査が必要であるが、診断の線引・鑑別は困難である場合が少なくない。画像診断においては統計学的画像解析法が開発されている。アルツハイマー型認知症の治療薬としては、アセチルコリンエステラーゼ阻害薬と NMDA 阻害薬の併用が増加することが予想される。

行動心理学的症候と対処法 (田中尚文氏, 427 頁)

認知症の中核症状とならび、認知症の行動心理学的症候 (BPSD) は介護者の負担感やリハビリテーションの阻害因子となる。BPSD の評価尺度としては BEHAVE-AD や Neuropsychiatric Inventory (NPI) などがある。BPSD の有症率や重症度は認知症重症度とともに増加するが、個々の BPSD に関しては、認知症の原因疾患によって異なる。BPSD 治療の原則は非薬物療法であり、関連する中核症状や環境要因に対応した調整を図る。薬物療法は低用量が基本であり、副作用に配慮する。介護の便宜のための薬物療法や、転倒予防のための身体拘束に関しては倫理的な考慮が必要である。

認知症の非薬物療法および若年性認知症の就労リハビリテーション (小長谷陽子氏ら, 435 頁)

イギリスでは、リアリティ・オリエンテーション (RO) と回想法の有用な要素を系統的にまとめた cognitive stimulation therapy (CST) が大規模な多施設研究で有用と認められ、実践されている。筆者らは CST の基本的な考えをもとに、日本の高齢者を対象とした個別対応のプログラムを開発している。一方、若年性認知症は発症年齢が低いことで発見が遅れやすい。また、適したサービスも少なく、経済的な問題あるいは家族への影響が大きいなどの問題がある。2008 年 7 月に厚生労働省から出された「認知症の医療と生活の質を高める緊急プロジェクト」でも就労支援を含む継続的支援が挙げられている。

運動療法のトピックス (朝田 隆氏, 441 頁)

認知症患者における運動療法は認知機能のみならず、精神症状、行動障害、日常生活機能の改善を目指すものである。運動は、遂行機能に関連する前頭前野背外側の活性を亢進させ、また神経栄養因子の増加に関連することで脳機能を改善させるという仮説がある。運動習慣が認知症発症に防御的に働くことは疫学研究が示しているが、認知症患者に対する運動療法の効果に関しても複数の RCT やメタアナリシスがあり、認知機能や行動面に効果が期待されている。

認知症短期集中リハビリテーション (遠藤英俊氏ら, 445 頁)

認知症短期集中リハビリテーションは、介護保険制度のなかで介護サービスメニューの一つとして 2006 年 4 月から認められ、その後発展的に改定されてきた個別リハビリテーションである。ADL の改善、活動、周辺症状、認知機能、意欲の低下などの指標により効果が検証されている。現在は全国の介護老人保健施設の 5% がこの加算の請求をしているが、施設による質の差の解消などが今後の課題である。また、運動メニューをどのように取り入れていくかも課題と言える。

ニュース

障害者雇用も加点、総合評価入札で成田市一新年度から適用… 448 看護師配置し短期預かり、重症障害児の在宅介護支援へ久留米市、新年度から… 448 ロボスーツ無料貸与一岡山県、歩行リハビリテーションに活用… 462 「ノーマライゼーション・障害者の福祉」2011 年 3 月号特集目次… 462 「リハビリテーション研究」No.146 特集等目次… 462 脳性まひ児、川越市が就学猶予一県支援学校入学できず、保育継続… 501 特別支援学校、過密一10 年で 3 万人増加… 501

書 評

脊髄損傷の治療から社会復帰まで一全国脊髄損傷データベースの分析から (佐伯 寛) … 433

お知らせ

第 13 回転倒予防指導者養成講座 (熊本) … 469 アメリカ足病医学会のバイオメカニクスに基づく足部の評価と運動制御アプローチ… 494